**①区や自治会に向けた**

**提言書（草案）**

― 地域の未来をともに考えるために ―



Ver.70424

駒ヶ根市自治組織の在り方検討会

**1. はじめに（背景と目的）**

近年、地域社会を取り巻く環境は大きく変化しています。少子高齢化や人口減少、単身・共働き世帯の増加、価値観やライフスタイルの多様化により、区や自治会などの自治組織においても、担い手不足や活動の停滞が課題となっています。

しかし、地域の安全や暮らしを支える最前線は、やはり自治会であり、今後もその重要性はむしろ高まっていくと考えられます。

この提言は、住民自らが地域を見つめ直し、「やってみたら楽しかった」「仲間ができた」という小さな成功体験を積み重ねながら、未来の地域運営を再構築していくための一助となることを目指すものです。

**2. 現状と課題**

▶担い手の高齢化と固定化により、区長や役員の業務負担が過重になっている

▶自治活動の「見える化」が進まず、住民間で活動の意義が共有されにくい

▶若年層や新たに転入した住民が地域活動に関わる“きっかけ”が少ない

▶紙による情報伝達や事務処理が多く、世代によって負担感に差がある

**3. 提言の方向性**

1. スモールサクセス（小さな成功体験）の創出

　→ できることからやってみる体験を積み重ねる

2. ICTや見える化による運営の効率化・魅力化

　→ LINE・HP・デジタルツールの活用

3. 地域の将来像を描くための可視化と共有

　→ 人口シミュレーションや地域の教科書づくりによる戦略的自治運営

4. 市職員・検討会委員との協働によるサポート体制

　→ 専門人材との“伴走型連携”で取り組みを継続可能に

**4. 具体的アクションプラン**

**アクションプラン①：防災マップづくりワークショップ**

地域内の危険箇所・避難場所・資源（飲食店、広場等）を、住民と在り方検討委員、地区担当職員が協働で調査・マッピングします。

ワークショップの過程そのものが“つながりの再発見”と信頼関係づくりにつながります。

出来上がったマップは災害対策だけでなく、日常的な見守りにも活用可能です。

**アクションプラン②：人口シミュレーションとプロモーション戦略**

各地区ごとの人口動態をエクセルシートで可視化し、目指す年齢構成に向けた施策や移住促進戦略を検討します。

若年層・子育て世代などターゲットを明確にしたプロモーションへとつなげます。

**アクションプラン③：「地域の教科書」づくり**

伊那市の事例を参考に、地域のルール・行事・支援制度・暮らしの知恵などを1冊に整理します。

新たに地域に入る人にとって、安心して関われる入り口となり、地域内での情報共有と誇りの醸成にもつながります。

**アクションプラン④：ICT活用と情報発信の仕組みづくり**

LINE・LINE WORKSの活用による情報伝達の効率化、市ホームページでの自治会専用ページによる見える化、住民による地域広報係の設置などを通じて、情報共有と参加促進を図ります。

駒ヶ根市HP「自治会・町内会紹介ページ」も積極的に活用します。

**5. 今後の展望と呼びかけ**

これらのアクションプランは、“今ある資源を活かしてできることから始める”という視点で組み立てられています。

モデル地区での先行実施を皮切りに、市や検討会委員のサポートを受けながら、少しずつ広げていくことが重要です。

取り組みの記録や効果を共有することで、他の地域への展開と、担い手の横のつながりづくりにもつながっていくと期待されます。

**6. おわりに**

「自治」は決して“仕事”ではなく、“地域で生きる人が、自分の暮らしと他者の暮らしをともに大切にすること”から始まります。

この提言書は、そのための具体的なヒントやきっかけを示すものです。

まずは、できるところから、やってみましょう。

そして、できたこと・楽しかったこと・うまくいったことを、次の誰かにつないでいきましょう。

地域の未来は、きっとその先に拓けていきます。